

## 2017年 キリスト教一致祈禱週間 東京集会説教

テーマ：「和解 — キリストの愛がわたしたちを駆り立てています

(二コリント 5章 14-20節参照)」

説教者：日本キリスト教協議会 第39総会議長 小橋孝一

宗教改革をどのような思いで振り返るのか、そして私たちはこれからどのような思いで生きて行けばよいのか。今日ご一緒にお読みした文章の中から、三つの点に注目したい。

一つ目は、聖書の福音を改めて鮮明にした出来事だったことが共通認識として打ち出されている。

二つ目は、宗教改革は、教会の分裂を生んだ出来事だったこともまた、共通認識とされ、その罪を告白して赦しを乞うということが明言されている。

三つ目は、この罪を赦し、分裂を乗り越えさせるのは、和解へと駆り立てるキリストの愛である、という点である。

第一の宗教改革が聖書の福音を再確認させたという点は今日次第に理解が広まって来た。特にカトリックとルーテルが研究と協議を重ねて下さったことは感謝すべきことです。

第二の宗教改革以降に生じた分裂の罪という点はどうか。分裂の歴史を一つ一つ振り返ってみても、なかなかそれが罪であったという共通認識に至っていないのではないかと。

脱退したとか、除名したとかと言う場合、相手がこうだったから離脱したのだとか、相手がこうだったから除名したのだと言うような話になりやすい。

相手の罪を指摘しても、決して自分たちの罪の自覚にはならない。そして脱退し除名して新しくされたこの自分たちの伝統を守っていこうという話になる。

ではどうすればよいのか。相手ばかりではなくて、自分の側の過ちや罪も具体的に認識する。そして互いに罪ある者として、謙遜になり、寛容になり、相手を受け入れる。

しかしそんなことが本当にできるのか。心がけを善くすれば、できるのか。実際にはいくら心がけを善くしても、いつか壁に突き当たる。罪人にはその壁を突き破る力はない。

そこでまた話は宗教改革が再確認した「神の罪人に対する和解の福音」に戻る。この神の和解の行為に真実に動かされることによってのみ、教会の一致は成り立つのである。

教会の一致は私たち人間の理想や願望や主義・主張ではない。神のみ心の中にある現実である。神の御心の中にはあれこれの教会ではなく、キリストの体なるただ一つの教会がある。

その御心を知らされる時、私たちの歴史を振り返って自分を正当化しようとするあれこれの主義・主張は、御心に反する罪として自覚せざるを得なくなる。

その罪を隠すことなく告白し、神と人と共に赦しを乞う。それは反省して自分の非を認めるといふ程度のことではない。罪ある自分はキリストと共に死んだ。そしてキリストの御業に用いられるために新しく造られたのだという自覚である。

そのように自分をそして相手を受け取り直す時、分裂を乗り越え、和解へと至る力が与えられる。それがキリストの愛が私たちに駆り立てるとパウロが言う出来事だ。

では具体的にどうすればよいのか。あまりにも話が大きすぎて、根が深すぎて、私にはどうすることもできない。まあ代表者たちがよく話し合っしてほしい、となりやすい。

そんなことはない。神はこの一致の実現のために、私たち力のない一人ひとりを用いて下さる。そして人間の目にはゆっくりと、しかし着実に一致を実現して下さい。

神様が私たちを用いるために備えて下さる御業が数多くある。一つは、今日のようなキリスト教の一致を祈る集いにできるだけ参加するということだ。

特に今年は宗教改革500周年にちなんで、多くの集会が計画され、参加を呼び掛けられる。それに極力参加しよう。そして自分自身がまず変えられて行こう。

二つ目は、震災などの救援活動に自分なりに参加して、主のみ心に共に参加する体験を重ねることだ。信仰を前面に掲げなくても、主の御業に共に参加できる喜びは体験できる。

三つ目は、世界平和を実現する主の御業に参加する。そこで共に働く信仰の仲間を見出す。所属する教会は違って、主の御業に用いられる働きは同じだとの体験ができる。

その気になれば自分を変えていく機会是他にも見つかるだろう。

だが大切なことは、それが自分の新たな主義主張となって、自分の所属する教会に対する非難や攻撃になってしまわないことだ。それでは新たな分裂の原因にさえなりかねない。

一人の百歩より百人の一步。教会の仲間と共に一步一步変えられていくことが大切だ。

あくまで自分の所属する教会の信仰を大切にしながら、他の伝統に連なる教会と共に働き、一步一步主の導きを信じて歩むことである。

主はすでに一致を与えて下さっている。焦らず・諦めず・希望をもって共に進もう。